みんなの宝・若桜鉄道

若桜鉄道㈱

※写真は発表者で
菊川ひとみさんの妹の翔子さん

第三セクター・若桜（わかさ）鉄道は鳥取県東部に位置し、昭和62年に旧国鉄若桜線の郡家（こおげ）駅と若桜駅間19・2㎞を引継いだもので、1日11往復のうち6往復はJR因美線の鳥取駅へ直通運転しており、通学・通勤の足として重要な役割を果たしています。

しかしながら、マイカーの普及や少子高齢化などによる沿線人口の減少に伴い、利用者数は年々減少し、三セク転換時に創設した基金も限界に近づいている厳しい経営状況にあり、これまでも廃止を含めた議論がされてきました。

こうした中で、地元関係者が中心となり、SL機関車の保存・展示、鉄道施設の国登録有形文化財登録、旅行業者との連携による旅行企画、各種イベント開催など観光客誘致やマイレール意識の高揚に向けたさまざまな取組みが行われているほか、このたび、国で制度化された公有民営による「上下分離方式」での運営に向けた議論も始まっています。

こうした取組みの1つとして、今年の4月12日に若桜鉄道の存続と地域の活性化をテーマに開催されたフォーラムで発表された、高校3年間を若桜鉄道で通学し、この春卒業した菊川ひとみさんによる地元代表のメッセージを紹介します。

私は高校3年間、若桜鉄道を利用して鳥取市内の高校に通学していました。

朝は、若桜駅発7時9分の列車、帰りは部活動をして、鳥取発7時53分の列車を利用していました。

2年生だった一昨年のある日、学校の社会部の部員たちに、若桜駅構内の転車台や給水塔の清掃ボランティアに一緒に参加しないかと誘われました。

最初はいやでしたが、考えてみると、若桜町に住んでいない人たちが、わざわざ若桜までボランティアに来てくれるのだから、地元に住んでいる私も参加しないわけにはいかないと思い協力しました。

また、社会部は3年前から宿内の「カリヤ（仮屋）」や「箱堀」「池の分布」などについても調査しており、一昨年には「若桜鉄道の沿線マップ」の制作も手伝いました。

清掃ボランティアや地図づくりを手伝っている中で、私も若桜鉄道の歴史や鉄道沿線の素晴らしさに、少しずつ気づくようになりました。

春は桜に梨やりんごの花。新緑と田植え前の水の張った田んぼ。

夏は山々の濃い緑、田んぼの稲の緑。そして線路脇の雑草の緑。

秋は紅葉と、豊かに実った梨、りんご、ぶどう、柿。

そして、雪に覆われた冬の白い山々。

四季折々に変化する窓の外の景色、そして、いつも線路のそばを流れる八東川を眺めながら、鳥取までの約1時間の通学時間は、ちょっとぜいたくな小旅行のように思えました。

昨年の今頃、若桜鉄道の存続が危ないというニュースを聞いて驚きました。

かつて、国鉄時代にも赤字のため廃止の危機におちいった時、「乗って残そう若桜線」という運動が起こったと聞きました。

私たちはもっともっと、若桜鉄道の沿線の景色の素晴らしさと、若桜鉄道の重要性を再認識すべきではないでしょうか？　そのことは、故郷の自信と誇りを持つことにつながると思います。

若桜鉄道が文化財登録されて、全国から注目されることは、うれしいことです。それだけに、若桜鉄道沿線の私たち若桜町・八頭町のみんなが、もっともっと若桜鉄道を利用し、若桜鉄道を支えることが大事なのではないのでしょうか。

「若桜鉄道」のことをみんなで一生懸命考えることは、若桜町や八頭町が、そして鳥取県が元気になるような気がします。